

やまなし

2008.12.15

vol.6

no. 2

contents

- 2 教育栄え、学び減ぶ！
“読む”と“コピー”とは大違い
- 4 利用者の声
- 5 学生にすすめる本
- 6 山梨大学学術リポジトリの構築に向けて
- 7 図書館トピックス
- 山梨大学近代文学文庫常設展
「尾崎紅葉門下の四天王」
泉鏡花・徳田秋声・小栗風葉・柳川春葉
講演会
「ホスピスから学ぶ対人援助」を開催
空調設備更新(医学分館)
木製可動キャビネット2台設置(本館)
- 8 今後のイベント紹介

教育栄え、学び減ぶ！ “読む”と“コピー”とは大違い

ナカガワ ヤスヒコ
工学部長 中川 恭彦

現在、日本の大学教育は「教育栄え、学び減ぶ」と言われています。ここで云う“教育”は教師ありの学習で、正解がある問題を解くことであります。“学び”は教師なしの学習で、正解が決まっていない、あるいは複数ある問題を解くことを意味しています。現在の大学生は、講義にはまじめに“出席”し、ノートを取り、試験の前日に受験勉強はするが、講義以外の時間には殆ど自ら学ばないというデータがあります。本来、大学の講義一単位は15時間の講義と30時間の自習を併せた45時間勉強しなければなりません。しかし、学生が殆ど自習を行わないことから、社会が要請する実力が身に付いていません。これが大学の出口管理が緩いと云われている所以です。

文部科学省はこのような状況を憂い、学士課程教育の構築（答申）が間もなく出されます。現在の大学教育は、“優秀な成績”で卒業できるが、実力が身につけていない、その実力では卒業後に社会に通用しない、と文科省は評価しているのです。私たち教員や学生は社会からの要請を真摯に受け止め、教育方法を改革しなければなりません。学生は30時間の自習を実行し、社会に通用する実力を身に付けなければなりません。米国発の世界的な金融危機に伴う企業業績の悪化で就職活動は大変厳しくなってきました。これを乗り切るためにも

社会に通用する実力を付けなければいけません。

さて、大学図書館の役目は、第一に学生が自主的に学習するための環境を整え学習支援を行うこと。第二に研究者に研究遂行上必要な学術情報を提供し研究支援を行うこと。第三に市民への公開を通じて社会貢献を行うこととあります。大学図書館は、ここ十年ばかりの間に大きく様変わりしました。紙媒体（冊子体）の書籍や雑誌のみならず、電子ジャーナル、電子ブック、二次データベースなどの電子媒体が大きな比重を占めるようになったからです。多くの大学は紙媒体と電子媒体の両者を提供する「ハイブリッド図書館」の構築を目指しています。館内には相当数のパソコンが備え付けられているだけでなく、使い勝手がいいようにノートパソコンを持ち込んで無線LANが使えるところもかなり増えています。このような図書館では、冷暖房の設備を備えた快適な環境で、いつでも“自習”ができます。



皆さんの中には何かを調べるときに、まずインターネットで調べるといふ人がたくさんいると思います。宿題のレポートを作成するとき、インターネット検索で解答を探し出し、カットアンドペーストでさっとレポートを作成してしまう人はいませんか。レポートの内容はそれなりにしっかりしていますから、「優」の単位を取得できるでしょう。その積み重ねの結果、優秀な成績で卒業できるでしょう。しかし、これには非常に大きな落とし穴が潜んでいます。カットアンドペーストあるいは“コピー”操作は単に指先の操作だけです。そのとき一時は理解したつもりでも翌日はすっかり忘れてしまうでしょう。なぜならその電子データが脳細胞を通過していないからです。そのデータが脳細胞にセーブされていないからです。これでは卒業後の社会に通用する実力は身に付きません。

情報技術（IT）は今後ますます進みます。それ故、大学図書館の「ハイブリッド図書館」化への流れは止められません。ですから皆さんにはハイブリッド図書館を上手く使いこなす技術が要求されます。紙媒体の書籍や雑誌のみならず、電子データもじっくり“読む”ことです。電子データを直ぐに“コピー”しないことです。読んで必ずシナプスを通し、脳細胞にしまうことです。場合によっては、手書きで紙媒体に書き写してください。書き写す作業はものごとを理解し記憶することに大変有効であると言われていま

す。IT社会とはいえ“読む”ことによって得られる知識は血肉になります。

山梨大学附属図書館は「ハイブリッド図書館」化が進んでいる図書館のひとつです。冷暖房設備の完備した快適な環境で、自ら学習を行い社会に通用する実力を身につけ、“学び”を栄えて下さい。“読む”と“コピー”とは大違いであることに気が付き、快適な空間で、ゆったりとした気分で書籍や雑誌、電子データを“読む”ことを心がけて下さい。



図書館と私

大学院教育学研究科 教科教育専攻


スズキ マキ
鈴木 麻希

私は山梨大学の図書館を利用して今年で6年目になる。学部生の頃は授業のレポートや卒業論文の資料集めの場として利用したが、他の人と比べて頻繁に利用した方ではなかったと思う。しかし、大学院に入ってからは受付業務という形で関わらせてもらえるようになったため、毎週1度は必ず図書館に行き、多くの本に触れている。この業務を始めて、学生や教員、学外の方など、たくさんの人が図書館を利用していることに驚いた。

図書館では、文献調査はもちろん、個人個人で勉強をすることや、グループ学習室で友人と共に会話をしながら勉強ができる。他に、コンピューター室でインターネットができ、視聴覚室では音楽を聴くことや、ビデオやDVDを観ることができる。また、受付に申し込みをすると学外の本の取り寄せや、論文の複写を申し込むことができる。試験前は特に多くの人利用していて、静かでピリリとした雰囲気は、大学の図書館ならではの空気だ。

受付業務を始めて今年で2年目だが、主な仕事は返却と貸出の手続きを行うことと、その日に返却された本を棚へ戻すことだ。私は本を棚へ戻す仕事が一番好きだ。なぜなら、普段自分の研究では絶対関わらない本に出会えるからである。ただ戻すだけでなく、周囲の本を見ることができ、そこでまた今まで見たことのない本を知れる。自分の専門教科である音楽の棚しかほとんど見ることがなかった私に、新たな世界を与えてくれる。図書館は、自分の専門だけでなく、専門外の学問にも接することのできる場で、自分が求めさえすれば実に多くの機会と可能性を提案してくれる場である。受付業務の一員として、多くの人にその機会を有効に活用してもらいたいと思う。



 明るく爽やかな笑顔の鈴木さんは、毎週木曜日に図書館でアルバイトをしています。今年、東京国際芸術協会新人演奏会オーディションに合格、また海外音楽大学マスタークラス派遣助成オーディションに合格してロシア国立モスクワ音楽大学へ短期留学し、大活躍でした。

私にとっての図書館

医学部 看護学科4年

フカサワ カナコ
深沢 加奈子

大学に入学してから4年間、図書館には様々な用事でお世話になった。まず一番お世話になったのは、図書館の大部分を占めている医学書である。演習の予習、テスト勉強、実習の調べ物などで利用させてもらった。特に実習では医学書を読み、患者さんの疾患を理解したりケアの方法を得ていたり医学書はとても重要な存在であった。同じ疾患でも何冊も本があるため、一冊で理解できない場合別の本を読む、ということが可能であったこともとても便利であった。

次に24時間利用が可能であり、勉強するスペースが確保されているということである。テストや実習が重なる時期には個人机がうまってしまっていて家に帰るといったこともあったが、みんなが勉強したり調べ物をしたりと家では感じることはできないぴりりとした空気は、勉強に対する集中力を格段にあげてくれたように感じる。また、24時間入館可能なことでより多くの学習時間が確保でき、テスト前などはとてもありがたかった。

最後に多くの雑誌を有しているということである。4年生になり看護研究を行う際、文献は欠かせないものである。そんな文献を図書館内で手に入れることができたり、時には館外にある文献を取り寄せてもらえることで研究がスムーズに行うことができ、とても理想的であった。

また利用者としてだけでなく、2年生の時からカウンター業務をやらせてもらったりと、私にとって図書館はとても色々な思い出がある場所である。今後もそんな図書館を有意義に利用していきたいと思う。



『薔薇の名前』 上下巻

ウンベルト・エーコ 著 東京創元社

ニイノ タカノリ
教育人間科学部 美術教育講座 新野 貴則

中世イタリアの修道院を舞台に「ヨハネの黙示録」を模した連続殺人事件が起こる。宗教会議のために修道院に訪れたウィリアム修道士とその弟子アドソは、この奇妙な事件の調査をしていくことになる…

…といった物語です。これだけを読むと中世を舞台にしたありきたりな推理小説のようですが、全く違います。

推理小説は一度犯人が分かっただけで済ませるかもしれませんが、ここでは、連続殺人事件＝謎をめぐって様々な物語が展開します。キリスト教における清貧や異端についての論争、博物学、迷宮と暗号、そして、記号と現象をめぐる論理展開。それらが一つの謎を中心に複雑に絡み合い、一筋縄ではいかない「読み」の楽しさを与えてくれます。何度読んでもそのつど新しい発見がある、そんな本好きにはたまらない一冊です。

どのように読むかは読者次第です。ストーリーを追うだけでも十分に面白いのですが、二度三度と読むうちにいろいろな読み方をしたくなります。例えば、この物語の最後の一文の意味を考えながら読むのも面白い。

〈過ギニシ薔薇ハタダノ名前ノミ、ムナシキノ名ガ今ニ残レリ〉

なかなか魅力的な一文でしょう。

上下巻のセットで厚みがあり、カタカナも多いので、読むには少し抵抗があるかもしれませんが、ですが、読み始めたらもうこの「知の冒険」はやめられませんよ。



所蔵案内：『薔薇の名前』上下巻
本館2階 一般書架
分類：973
医学分館2階 開架図書(第二)
分類：973/BAR/1
973/BAR/2

『なげださない』

鎌田 實 著 集英社

サトウ ツヤコ
医学部 看護学科 佐藤 都也子

「ちょっとしんどいと、親が子どもをなげだし、子どもは老いた親をなげだし、(中略)

ちょっとつらいと、勤め人は会社をなげだし…」

この本は、こんな鎌田氏の嘆きともとれる言葉ではじまります。「確かに…」と思いつつ“ドキッ”としました。私はなげださずにいるだろうか?—「もうあかんわ!」「もうええわ!」と思うこともあります。そしてなげだしたこともあります。そしてなげだしたあとは落ち込みます。

この本には、10人のなげださずにひたむきに生きた方の語りと、鎌田氏のこの方々への真摯な思いがつつられています。中途視覚障害(全盲)で障害者である自分を受け入れていかれた方など、国内外の方々の過酷な運命との長い長い戦い、そしてなげださなかったことで輝いている今がつづられています。

人は変わることができる—だから私も変わることができると思えることから、なげださない自分に変わっていけるのです。そして変わるために覚悟を決めて今の自分を受け入れる、しなければならぬことに何度もチャレンジする。失敗してもいいんです。チャレンジし続けることで、できそうになかったことでも、できるようになるのです。さらに自分の心の中に引きこもらないことが大切です。外に向かって歩み出すと、人生には新しい偶然の出会いが待っています。そして出会った仲間との絆が自分を成長させてくれます。

あなたにもなげださずに、輝いた今をていねいに生きていけることをこの本は教えてくれます。



所蔵案内：『なげださない』
医学分館2階 生と死のコーナー
分類：W9/NAG



山梨大学学術リポジトリの構築に向けて

現在、国内外の大学・研究機関等で**学術機関リポジトリ (Institutional Repository)**なるものの構築が進められています。リポジトリ(Repository)とは、元々「貯蔵庫」や「資源のありか」といった意味の英単語で、**学術機関リポジトリ (Institutional Repository)**とは、大学および研究機関等で生産された学術的な生産物を収集・保存し、発信するためのインターネット上の電子的保存書庫です。近年、学術雑誌の価格高騰などのため大学が購入できる学術雑誌タイトル数は激減しています (Serials Crisis)。このことがリポジトリ誕生の背景の一つにもなっています。また、インターネットを介した学術論文等への無料アクセスを推進するオープンアクセス運動 (Open Access) も、リポジトリの普及を推進しています。海外では、すでに1,000以上の機関で**学術リポジトリ**が設置・運用されており、日本でも、国立情報学研究所 (NII) の支援により、これまでに80以上の大学・研究機関等で**学術リポジトリ**が構築・運用されています。

学術リポジトリ構築の目的は、

- 1) 大学の教育研究成果の情報発信による社会貢献ができます。

Googleなどのサーチエンジンを通して世界中から大学・研究機関等の研究成果が、誰でも無料で自由に利用可能になります。

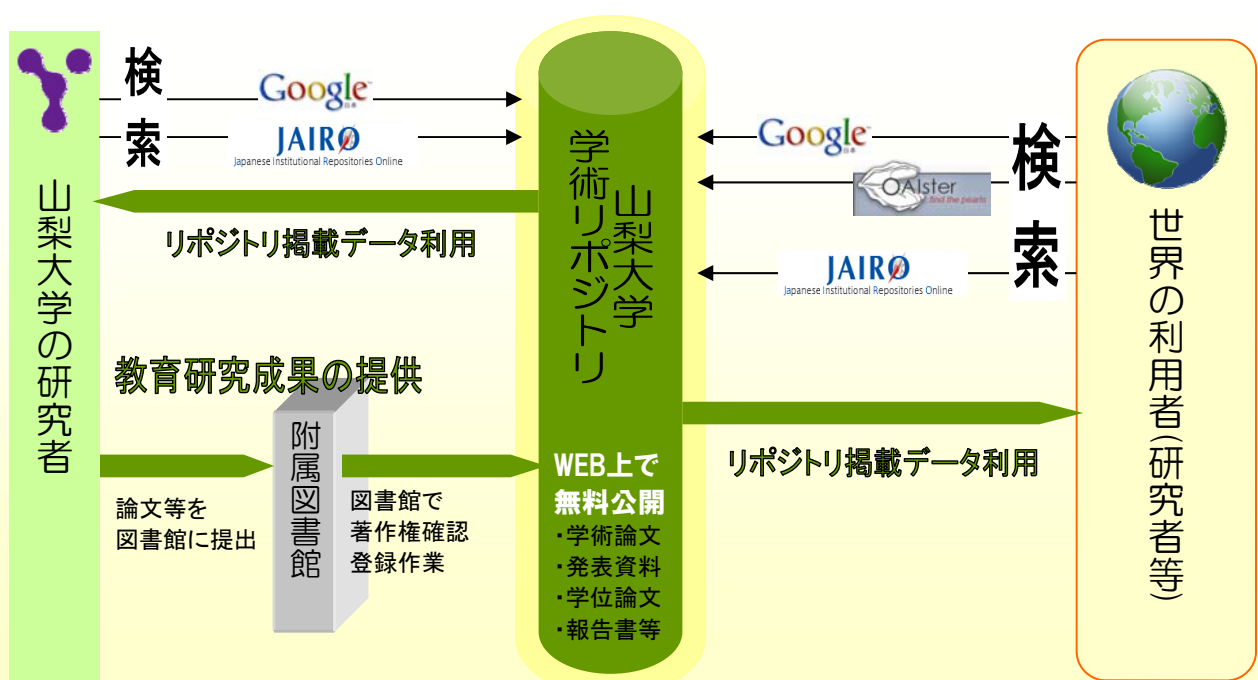
- 2) 大学の教育研究成果物の恒久的保存ができ、教育研究資源の共有化が図れます。

- 3) 大学の知名度を国内外で高め、研究機関としてのブランドイメージの向上を図ることができます。

こうした状況の中、国内外の多くの大学・研究機関等で学術リポジトリの構築が急務となっています。本学図書館でも、今年度、国立情報学研究所 (NII) の「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業—学術機関リポジトリ構築支援事業」の委託事業に応募し、採択を受けました。現在、**山梨大学学術リポジトリ**の構築に向けて準備をしており、来年度の早い時期に運用を開始する予定です。

以下は、リポジトリのしくみのイメージです。

----- リポジトリ イメージ図 -----



今後、研究者の皆様には学術研究成果物を提供していただく予定ですので、

ご協力をお願いいたします。

山梨大学近代文学文庫常設展

「尾崎紅葉門下の四天王 泉鏡花・徳田秋声・小栗風葉・柳川春葉」



附属図書館では、平成20年6月23日より本館2階の常設展示室にて『尾崎紅葉門下の四天王 泉鏡花・徳田秋声・小栗風葉・柳川春葉』をテーマとした展示を行っています。今回の展示では、尾崎紅葉門下の四天王と称され、明治・大正期に活躍した泉鏡花、徳田秋声、小栗風葉、柳川春葉の作品、約40点を展示しています。当時の人気作品や作家としての文名を高めた作品（徳田秋声「薊」、小栗風葉「恋慕ながし」、柳川春葉「生きぬなか」など）もご覧いただけます。

泉鏡花の作品の装丁は、彼と親交のあった日本画家・洋画家によって手がけられたものがあり、当時の色鮮やかな装丁美を間近にお楽しみいただけます。

どうぞお気軽にお立ち寄りください。



泉鏡花『照葉狂言』



徳田秋声『恋慕ながし』

山梨大学附属図書館医学分館・生と死のコーナー関連行事

講演会 「ホスピスから学ぶ対人援助」を開催

医学分館では、平成20年10月24日（金）に、生と死のコーナー関連行事として、めぐみ在宅クリニック院長の小澤竹俊氏を講師に迎え、講演会「ホスピスから学ぶ対人援助」を開催しました。小澤氏には、取り除くことのできない苦しみを抱えた人に対して、どのように援助していくことができるかについて、約1時間半、身近なテレビドラマの映像や過去の事例を交えながら講演していただきました。学内外から65名の方に参加していただき、終了後には「重いテーマをわかりやすく話されたので大変勉強になった」「患者さんをどう理解するかではなく、患者さんに理解者と思ってもらうことについて考えるという新たな視点を得た」といった感想が寄せられました。



当日の資料等はホームページで公開しています

[http:// www. lib. yamanashi. ac. jp/igaku/seitosi/h20hospice/h20hospice. html](http://www.lib.yamanashi.ac.jp/igaku/seitosi/h20hospice/h20hospice.html)

医学分館の空調設備を更新しました



以前より利用者の皆様からの要望事項としてあがっていた、医学分館の各閲覧室、各学習室、視聴覚室等の空調設備の更新を10月に行いました。すでに、学習室を利用した学生から、「快適になった」との声をいただいています。

皆様のご利用をお待ちしています。

本館に、木製可動キャビネットが2台寄贈されました。

本館では、財団法人田嶋記念大学図書館振興財団からの助成金により、木製可動キャビネット2台を設置し、本学所蔵コレクションの一つであるスピノザコレクションを収納しました。このキャビネットには調湿ボードがついており、より良い環境で貴重資料が保管できるようになりました。



今後のイベント紹介

参加費：無料



連続講座

平成20年度 山梨県・山梨大学連携事業 「子どもと本をつなぐ・連続講座」第5回（最終回）

この講座は「山梨県子ども読書活動推進実施計画」に基づき、また山梨大学の地域貢献事業の一環として、山梨県教育委員会と山梨大学の共同企画により行われるものです。第5回は今年度最終回です。

シンポジウム

「私の子ども時代の本棚～子どもと本が会おうとき～」

日 時：平成21年2月5日（木）

午後2時～4時（予定）

会 場：山梨県立男女共同参画推進センター
（ぴゅあ総合）大研修室

主 催：山梨県教育委員会

山梨大学附属図書館子ども図書室

*事前にお申込みが必要です。

お申込み・お問合わせ先

山梨県教育委員会社会教育課
社会教育振興担当

〒400-8504 甲府市丸の内一丁目6-1

TEL 055-223-1771 FAX 055-223-1775

Email:shakaikyo@pref.yamanashi.lg.jp

講演会

平成20年度 山梨大学附属図書館講演会 「甲府ごぜ と 越後ごぜを語る - ごぜ唄演奏を交えて -」

今年度、小泉文夫音楽賞と田邊尚雄賞をダブル受賞した教育人間科学部教授 ジェラルド・グローマー氏を講師として、現在下記の予定で講演会を企画準備しています。また、越後ごぜ唄の伝承者である萱森直子氏の演奏も予定しています。詳細は決まり次第お知らせしますので、ご期待ください。

ごぜ唄演奏：越後ごぜ唄伝承者 かやもり なおこ 萱森 直子氏

講 師：山梨大学教育人間科学部教授 ジェラルド・グローマー氏

日 時：平成21年3月（予定）

◆イベント詳細については、ポスター・パンフレット・山梨大学附属図書館ホームページ等でお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしています。

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できます。詳細については、<http://www.lib.yamanashi.ac.jp/>をご覧ください。ただ、本館 Tel:055-220-8066（情報サービスグループ）、医学分館 Tel:055-273-9357（医学情報グループ）にお問い合わせください。



山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第6巻第2号

2008年12月15日 発行

編集：館報編集委員会

発行：山梨大学附属図書館

〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37

TEL 055-220-8063